

たじみの公共施設

3

問 公共施設管理室
林 TEL 22-1376

多治見市は平成28年度に第8次行政改革大綱を策定し、全国平均より約2割（市民一人当たりの延床面積ベース）多い公共施設を整理する取り組みを進めています。

この取り組みの一つに、児童館機能を公民館に統合する計画があります。これは『複合化』という手法で、従来の「一つの施設（ハコ）に一つの機能」ではなく、「一つの施設（ハコ）に複数の機能」を持たせるものです。複合化により、ロビーやトイレなどの部屋を可能な限り共有し、今までの機能を維持しながら延床面積（公共施設に係る負担）を削減することができます。さらに、児童館機能を利用する子どもたちと、公民館を利用することが多い大人との交流が生まれ、新たなにぎわいの創出や地域力の向上が期待されます。

多治見市では、平成25年に「児童館」「公民館」「地区事務所」の3つの機能を持つ複合施設として

根本交流センターを建設し、子どもから高齢者まで多世代が集い、交流するイベントが多数開催されています。

人口減少や高齢化などによる厳しい財政状況の中では、「今ある施設（ハコ）」を同じように維持するのではなく、「今ある機能」が真に必要なものかを見極め、必要な場合は効率良く残していくための検討を進めることが大切です。



▲複合施設 根本交流センター

市の公共施設の現状を把握できる公共施設白書をホームページに掲載しています。



時代をつむぐ男と女

146

問 暮らし人権課 伊藤 TEL 22-1128

内閣府は、毎年11月12日から25日までを「女性に対する暴力をなくす運動」週間としています。今回は「ドメスティック・バイオレンス」（以下DV）に関するお話です。

DVというと、夫が妻に対して振るう暴力をイメージしがちですが、正しくは配偶者や恋人、パートナーなど親密な関係にある人から振るわれる暴力全般を指します。叩く、蹴るだけでなく、暴言を吐く、殴るふりや無視をする「精神的暴力」や、外出や友人、親族などの付き合いを制限する「社会的隔離」など「力」で相手を支配しようとする行為です。

男性より女性の方が被害に遭う可能性が高い理由として、「男性は仕事、女性は家庭」といった男女の固定的役割分担意識や経済的格差などの問題が要因になっています。

暴力により被害者が受ける身体的ストレスは、風船のようにどんどん膨らんでいきます。

一人で我慢したり、悩んだりせず、信頼でき

る人に話すか、下記の相談窓口を利用してください。また、身近で被害を受けている人がいれば、迷わず声をかけるようにしましょう。

相談	電話番号
女性相談	TEL 23-5609 (市役所子ども支援課)
配偶者暴力相談支援センター	TEL 23-1111 (東濃県事務所福祉課)
女性相談センター	TEL 058-274-7377 (県)
男女共同参画プラザ	TEL 058-278-0858 (県)

▲開設時間など詳細は問い合わせください

女性に対する暴力をなくす運動 11月12日～25日

暴力、性犯罪、ストーカー行為など、女性に対するあらゆる暴力を根絶するため、全国各地で啓発運動を行います。多治見市では11月20日から25日まで駅北庁舎を紫色にライトアップします。



▲駅北庁舎ライトアップの様子